

うテーマがもたれてあり、宮下俊彦、深谷敦子、前田登美子、秋田美子、岸野俊太、まきの修二氏等が執筆しておられるが、幼児教育の任に当る一人として、安全保育はかたときもゆるがせにはできない重要な面であるだけに考えさせられるものも多かった。次にその内容をごく簡単にはあるが咀嚼してふれてみよう。

おさな子をあづかる身として園で事故をおこさずにと願う気持は一しおであるが、まだ幼児たちには自らの行動で安全を守りうる能力は十分できてはいない。従って幼児の傍にいて気をつけて見守るといふこと、園の環境をできるだけ安全なものにしておくという仕事がまず第一に必要なようになってくる。しかし交通などの危険も予測される都心の保育施設は勿論、平和郷とみられる農村においても凡ゆる危険からは全く除外されつくした園というのが果してありうるであろうか。こう考えてくると、危険に近よらないことは安全保育の第一歩ではあ

るが、次にもっと積極的なあり方がほしくなってくる。即ち、幼児自らが安全を守るように教育し、幼児により安全な行動を身につけさせるよう教育することが大切となってくる。それは遊具・道具の正しい扱ひ方や、運動能力の発達を助成させるような指導、災害予防のための対策として避難訓練や交通訓練をするなどがあげられてくる。こうして不時の災害に対処するための機敏性を養う訓練を日頃から行なっておくことと共に、非常の際の保育者の態度が、いかにその場にとって肝要なものとなるかはいうまでもないであろう。

更にまた、万一、事故がおきた際の責任の所在や、災害対策立法ならびに共済保険機構の実施を望む章なども貴重な論説として参照される。「安全保育」に万全を期したという気持を、この特集を読んであらためて強く感じるのであった。「以上」

幼児の教育 第五十六巻 第二号

◎ 定価 五十円

昭和三十二年 一月二十五日印刷
昭和三十二年 二月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

発行所
お茶の水女子大学附属幼稚園内
日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所
凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番
本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いします。